



私の初夢

森林技術総合研修所長

小原 文悟

あけましておめでとうございます。皆様には、ご家族共々健やかな正月を迎えられたことと思います。

昨年は、サブプライムローン問題に端を発した景気の後退、そしてデフレーション環境の下での賃金下落による更なる需要減退という負のスパイラルの環境にありました。この環境をピンチとみるかチャンスとみるか。このような時だからこそ、自ら選択し、前向きに将来に向けて活動していければと思います。明るい未来を切り開いていく気概をもって、それぞれのお立場での奮闘を期待します。

さて、冒頭に私の初夢と書きました。これから私がどんなことを考え、活動していこうとしているかを述べたいと思います。

これまで、発展する研修を目指し、森林総合研究所、関東森林管理局、そして当所の三者で林業機械化推進研修・研究協議会を設け、研修と研究の連携を目指した活動をしてきています。この活動自体貴重なものであり、さらに内容を充実させていきたいと考えています。

今熱中しているのは、異なるAという研修とBという研修を相互に関連させながら紡いでいき、その結果を社会に還元し、研修を進化させていくことです。考えている二つのモデルを紹介します。

一つめは、同時並行に実施している研修を結びつけるタイプのモデルで、現在進めているのが専攻科研修（1年間研修所に所属し、様々な知識を得る国有林野事業職員向けの研修）

（A）と現場での実務を扱う生産・販売研修（B）の協働化です。具体的にはB研修で発注事業を通じて生産性に関する情報収集方法の検討を行い、研修終了後、現場での事業を通じて実際に情報収集していく活動を担う。一方、A研修ではB研修の結果から得られる情報を元に事業の進行管理を行うプログラムを開発していく役割を担う。もちろん、これらの成果を実際に事業に取り入れていくだけでなく、生産性指標として公表していくことができればいいと思っています。

もう一つは、過去に実施してきた研修成果を客観的に評価し、その結果を新たな研修に活かしていく謂わば過去と未来を結ぶタイプのモデルです。当所の林業機械化センターでは2007年から低コスト作業路関係の研修を実施してきています。来年度の研修では、これまで築造してきた作業路の路面支持力、路体構造や内部の強度、経年変化等について破壊検査を含め数値計測を行い、客観的な指標をもとに走行車両に応じた路づくりに関する情報収集を行う（A）研修と、それらの計測結果に基づき、長期に使用可能な作業路づくりを検討する（B）研修を同時に実施していくことができればと思っています。もちろん得られた情報を公表していくことは前述のタイプと同様です。

どこまでできるか分かりませんが、初夢としては悪くない話だと思いませんか。





研修生から学ぶこと（林業機械化センター）

林業機械化センターでは、例年より若干遅く降った雪が根雪となっている中で新年を迎えています。4月から、機械器具の調達・整備と実習林の準備作業などを続け、20コース約300名の研修生を受け入れるとともに、見学や視察の方々には研修の状況をはじめ、大断面集成材を使った木造施設や高性能林業機械の紹介なども行い、12月には平成21年度に計画した研修が怪我もなく無事に終了しました。

今は研修評価の取り纏めを行っているところで、この中で気がついた点を述べたいと思います。

研修は、専攻科49期生のチェーンソー・刈払機研修から始まり、都道府県職員等を対象としたチェーンソー・刈払機研修で終了しました。これは、当地の気象条件から、早春と晩秋はなるべく屋内での実習が多い研修にすることが好ましいことから最初と最後に計画したものです。

刈払機では、この時期には枯れ草しかなく、丸鋸の目立て後の切れ味を試すには若干物足りないところですが、チェーンソーでは、立木伐倒や掛かり木処理、軽視しがちなソーチェーンの目立てなどを学んでいただきました。

林業の現場では最も身近な機械で

ありながら、触ったこともない研修生が多く、機械の構造や目立て、安全な使用方法などの基礎的な

平成21年度 林業機械化センター研修実績表

研修コース名	日数	定員	受入 講数	所属別受講人数			
				都道府県等	学校関係	民間団体	国有林
林業機械体験 i	3	15	39		39		
林業機械体験 ii	3	15	22		22		
林業機械 [チェーンソー・刈払機]	5	20	18	17			1
高性能林業機械作業システム [環境負荷低減方策]	5	15	11	10			1
高性能林業機械作業システム i [作業路活用システム構築]	10	10	12	11			1
高性能林業機械作業システム ii [作業路活用システム構築]	10	10	8	5			3
集材架線	5	20	15	10			5
安全管理監督者	3	20	23				23
低コスト作業路企画者養成 i	12	15	13	7			6
〃 ii	12	15	14	9			5
〃 iii	12	15	11	10			1
低コスト作業路技術者養成 i	12	15	13	1			12
〃 ii	12	15	15	1			14
〃 iii	12	15	19				19
〃 iv	12	15	13	1			12
低コスト作業路企画者養成 フォローアップ	5	15	6	4			2
低コスト作業路技術者養成 フォローアップ	5	15	7	2			5
生産・販売	12	14	14				14
専攻科 [チェーンソー・刈払機]	5	10	10				10
専攻科 [集材架線]	4	10	9				9
計	159	294	292	88	61	110	33

注：受講人数には聴講生を含まない。



～ちょっと重心が高いかな？～

知識・技能を体で覚えられるのはセンターならではないかと自負しています。このため、「職場に戻っても機械が配置されていない場合が多いと思いますが、事業体等を指導するにはまず自身での体験を踏まえた上で指導をしてもらいたい」とお願いしています。家が農家で刈払機があるので練習したい、職場には機械がないため自分で購入して腕を磨きたいなどの感想を残してってくれる研修生もあり、怪我をしないように頑張ってもらいたいと願っているところです。

林業を担っていく若い人達も、林業機械など滅多に目にする機会がないために、林業機械体験研修に参加する大学生は勿論のこと、見学に訪れる高校生や短大生にも可能な限り多くの機械に乗ってもらおうことにしています。毎年計画的に来所している地元の高校生には、リモコン式の小型フェラーバンチャとプロセッサの操作ができるように準備していますが、大型のプロセッサに乗るほうが人気があり、特に女子生徒のほうが積極的で上手く操作しているように思います。

この高校生や大学生を見ていると、林業の現場は体力的な面で男の職場と考えられることが多い中で、機械に関しては女性のほうが適しているのではないかと考えさせられる場面も多く、3K職場と言われる厳しい職場でも機械オペレーターとして活躍している女性も散見されることもあり、機械を好きになることで林業への理解と就業が促進されれば良いなど考えています。



～「集材架線」でガイライン張り～

平成19年度から3年計画で進めてきた「低コスト作業路」研修は、最終年度となり9コースを実施しました。

低コストという名称から、安価な作業路を作るという誤解をして参加してくる研修生もいますが、簡易で耐久性があり継続的に利用できる作業路でトータル的に低コストになるという説明や、実習林での作設箇所を見て、自分で作ってみて、納得して修了していつてくれています。中には自分の現場では地質が悪くてできない、丁寧に施工するより従来の簡単な作業路で十分でないかなど、現場で取りかかることの難しい実態が垣間見える意見も聞かれます。

また、一部の視察者からは実習林内の作設路の作設方法や安全性などに対する指摘もいただいたところですが、従前から、路網に絶対といわれる技術が確立されたわけではなく、林業経営や森林の状況等から様々な考えや事情によって作設手法も異なり、土質によっても大きく左右されるものと指導してきており、今後も、指摘の内容も加味した中で真に現場に求められる工法等を採り入れるような指導と研修にしたいと考えているところです。



～丸太組の洗い越しを作る～

高性能林業機械に関連する研修では、センター所有あるいはレンタル機を使用した実習で機械の特性と操作をある程度知り、様々な地形に適応した最適な作業仕組みなどを習得していただくこととしています。現場においては、事業体が所有している機械を効率的に使用することが第一であるものの、数千万円の機械を揃えることやレンタル等に対応するには事業量の確保やオペレーターの養成など実施上の困難な課題も多く、こうした現場をどのように指導していくかを見い出そうとしている研修生への的確なアドバイスができない歯がゆさも感じているところです。

年間の様々な研修には、全国の様々な事情・目的を抱えた研修生が参加しています。これらの研修生が1～2週間の共同生活の中で研修生同士が情報交換していますが、センターとしても貴重な現場の声が聞ける場でもあります。来年度の研修計画において、こうした声を活かした研修を計画していきたいと考えています。

研修紹介「森林総合利用研修」

11月10日から13日までの4日間、森林の多様な利用を通じた山村振興を図るため、山村と都市との交流をはじめとする森林と人との多様な関わりの促進方法を習得することを目的に、全国から36名地方自治体及び森林管理局・署の職員の方々が参加して本研修が開催されました。

森林総合利用というものが元々幅広い活動を含むものであるため、研修科目は、森林環境教育、山村と都市との交流、森林ボランティア、森林療法、森林内活動における安全管理など多岐に亘りました。以下、いくつかの講義等をご紹介します。

岩手大学の山本准教授の講義では、米国の野外教育学者G. ドナルドソンの言葉を森林教育になぞらえて、Education in forest, Education about forest, Education for forest（森林「における」「についての」「のための」教育）と環境教育がステップを踏んで行われるものであることや、日本人とヨーロッパの人々の余暇の使い方の違いなどをご自身の体験を基に分かりやすく講義していただきました。

また、森林総合研究所の大石グループ長の講義では、森林体験活動を行う場合に指導者が活動の目的を明確にすることの大切さを強調されました。その後、限られた時間の中ではありましたが大石氏の指導の下、研修生が6つのグループに分かれて体験活動のプログラム作り、ポスター作り、アイデアの発表を行いました。



～山のふるさと村ビジターセンターで～

さらに、今回は、前年の研修生からの要望を踏まえて、東京都奥多摩町の体験の森、山のふるさと村、山のふるさと村ビジターセンターの3つの施設を現地見学し、森林ボランティアの養成や自然体験学習など様々なイベントを企画・運営されている方から業務内容をお聞きした後、仕事を進める上での工夫や問題の解決方法などについて質疑応答を行いました。

この中で、ビジターセンターの担当者の方からは実際のイベントの企画書やスタッフの動きや参加者の心の動きをまとめた行動計画表を配布していただき、これに先だって行われた大石グループ長の講義内容とも関連深く研修生にも興味深いものでした。



研修を受講して〈1. 林業普及指導員専門[林業機械]研修〉

1. 林業普及指導員専門[林業機械]研修〈平成 21 年 11 月 17 日～11 月 20 日〉

兵庫県立農林水産技術総合センター 森林林業技術センター資源部普及担当
専門技術員 平野 孝幸

林野庁森林技術総合研修所で平成 21 年 11 月 17 日から 20 日まで、林業普及指導員専門[林業機械]研修を受講しましたので、感想を述べてみたいと思います。



～ 講義風景～

今回は、全国から 26 名の参加でしたが、私が研修生の中で最も年長だったからでしょう、研修生の代表をしてとの連絡が山田徹研修企画官からありました。

副代表は岐阜県恵那農林事務所の和田将也さんと長崎県対馬振興局の溝口哲生さんの二人が務めました。

代表の主な役割は、①初日の夜に研修生主催で行う懇親会における研修生代表あいさつや、同席頂いた研修所の関係者や林野庁をはじめ講師の方の紹介を行うこと。

②各講義の始まりと終わりに「起立」「礼」「着席」の号令をかけることなどでした。

初日の懇親会は、研修生はもとより多くの人との交流を図ることができて、研修を受けるにあたって、とても効果的でした。

各講義の号令かけも、講義のスタートが大事だと思い、気合いの入った号令で引き締まった空気になるように心がけました。

研修内容も、幅広い講師陣と、一方的に聴くだけでなく、レクチャー&フォーラムという形式で、講師との意見交換もでき、課題に対応したグループ別討議もあるなど、研修生自身が考える時間があって、とても意義深いものでした。

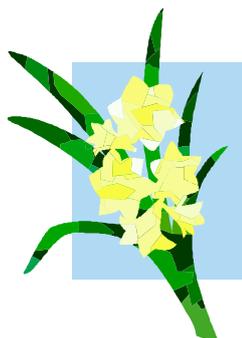
研修最後の夜は、研修生のほとんどが参加して、高尾の街に出て意見交換を行うことができて、今回の研修を契機に、林業機械に関する情報交換や普及指導員としての連携を深めようという相談があちこちで成立しました。

研修所職員の方はもとより、研修生の皆様のご協力で、無事に代表が務まり、私自身一層充実した研修になったことに感謝しています。

最後に、今回の研修の成果が普及の現場で活かせるようにさらに研鑽を積んでいくことを決意して、本研修の感想といたします。



～グループ討議の様子～



研修を受講して〈2. 情報処理Ⅱ〉

2. 情報処理Ⅱ 〈平成 21 年 12 月 8 日～12 月 11 日〉

北海道森林管理局 高 鷲 淳 一

森林GIS等の効果的な活用を図るため、GISの仕組みや動向などの基礎知識と業務への活用方法を習得することを目的にした業務研修が実施され、森林管理局の情報処理担当職員等8名が4日間にわたって受講しました。

はじめに、GISとGPSの基礎知識等について、国有林GIS(国有林地理情報システム)の開発から携わっているクボタシステム開発(株)のシステムエンジニアの方を講師に迎え講義を受けましたが、丁寧なわかりやすい説明で基本から学べるとともに詳しい知識を得ることができました。

また、平成21年度に改修した機能等について紹介がありましたが、多くの改良点があり、かなり改善されてきた印象を受けました。

2日目は、実際に国有林GISを操作する演習を行いました。この演習では、基本操作に関する「概要編」のほかに、実際に業務に使用できる「活用編」に重点が置かれ、高度な操作方法の事例として、「人工林で施業履歴が存在しない箇所の情報表示」など、具体的に操作して覚えることができました。

また、フリーソフトで利用可能な衛星写真や様々な地理情報等の外部情報を国有林GISに取り込む方法を学びましたが、今後、国有林の現場での活用が進むのではないかと感じました。

3日目の午後は、GPSの活用状況について各局が発表し、質疑や意見交換を行いました。各局の取組はどれも興味深く、大変参考になりました。

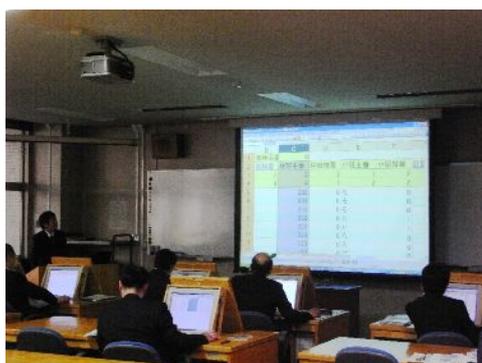
各局とも共通しているのは、GPSをコンパス測量に代わるものとして使用できないか検討していることで、今後の動きが注目されるようです。

また、東北森林管理局では、新たなGPSの本格導入に向けて様々な機種を試験的に使用し、検証を行っていることが発表され、大変興味深いものでした。

最終日の質疑・応答の中で、林野庁経営企画課から今年度から航空写真の電子データ化を進めるとの話がありました。今後、国有林GISへの活用が期待できそうです。

国有林GISは、技術の進歩と操作性の向上などにより、より使いやすくなってきています。これからは一人でも多くの職員がそれぞれの業務で一層の活用を推し進められるよう、指導・普及に努めたいと思います。

最後になりましたが、講師の皆様、林野庁経営企画課及び研修所職員の皆様には大変お世話になりました。研修生を代表してお礼申し上げます。



～クボタシステム開発(株)

システムエンジニアによる講義～

専攻科生の研修日記（10月～12月）

高尾での研修生活もあっという間に9ヶ月が経ちました。東京での生活にも慣れ、日々充実した研修生活を送っています。

10～12月に行われた講義の様子をいくつかご紹介します。



『低コスト作業路企画者養成研修（合同講義）』《11月》

林業機械化センターにおいて実施された研修では、自治体や事業体の機械のオペレーターの方々と合同で講義を受けました。

教室で模型を用いての作業路の選定について指導を受けた後、実際に現地で作業システムを考えながら作業路の線形の調査を行い、最後にはグループごとに作成した成果の発表を行いました。普段接する機会が少ない自治体やオペレーターの方と意見交換でき有意義な研修を過ごすことができました。



～模型を用いて路線をイメージ～



～苦勞した現地調査後の設計～

『森林土木技術者育成実務研修（合同講義）』《11月》

2週にわたって行われた研修では、前半に治山技術の概要や調査設計の基礎などの講義を受け、後半の実習では治山ダムの設置位置や土砂災害時を想定し溪間工の調査・設計を行い最終日には各班の成果発表を行いました。

この研修では治山事業の重要性と調査・設計について学ぶとともに、実際に現場で治山事業担当されている方々の話を伺うことができました。

『課題研究の中間発表会』《12月》

4月から取り組んできた課題研究の中間発表会には、多摩森林科学園の赤間園長、当所の小原所長をはじめ多くの職員の方々が出席のなか、今まで取り組んできた研究の進捗状況及び今後の進め方について発表しました。

発表後、出席者からは分析方法や取りまとめの方向についての指摘があり、研究の難しさを痛感したところです。

なお、今回頂いた貴重なアドバイスを活かし、2月の最終発表に向けて全力で取り組んでいます。

そのほか、森林総合研究所での集中講義（後期）や機械化センターでの架線系林業機械に関する講義など、森林・林業に関する技術のほか、行財政学概論やマーケティング論などの講義を受講し、幅広い知識と技術を身に付けることができました。

研修も残すところ僅かとなりましたが、これからも気を緩めず、より一層研修に取り組んでいきます。



～中間発表では緊張の連続でした～

生活習慣予防セミナーの実施

当研修所においては、毎年10月の労働衛生週間に、職員を対象として実用的な行事を実施しています。今年度は、八王子市レクリエーション協会より講師を招き、「ストレッチ体操」を実施しました。

近年、「メタボリック症候群(内蔵脂肪症候群)」については特定健康診査に基づく特定保健指導が実施されていますが、当研修所においても、その予防に努めなければならないところです。

今回の生活習慣予防セミナーでは、日頃、運動不足を感じている方でも、手軽に日常生活のなかで実施でき、継続可能な内容で、実際に短時間ではありましたが、いつの間にか汗ばむ程の運動量になっていました。

これを機に職員の生活習慣病の予防及び健康の維持・増進に、より一層努めていきたいと考えております。



栄養指導の実施

10月に実施した、「生活習慣予防セミナー」に続き、今年度新規に「栄養指導」を実施しました。

これは、健康診断実施結果を踏まえて、11月に管理栄養士を講師に招き「栄養バランスのとれた食事について」と題して実施しました。

栄養バランスのとれた食事を摂取することで、健康な生活を送り、病気になってから治療するのではなく、毎日の食事で病気にならない身体を考えるもので、バランスのとれた食事は、生活習慣病の予防にもつながることを学びました。

人事異動

(平成21年12月1日付け)

転出

関東森林管理局 総務部 総務課付(林野庁駐在) **森崎 信** (技術研修課 研修企画官)

転入

技術研修課 研修企画官 **藤平 康則** (林野庁林政部 経営課 林業事業体育成班 雇用改善係長)

●●お知らせ●●

当研修所において、統合ネットワークの移行作業が、2010年2月22日に行われます。これに伴い、メールアドレス等が変わります。

連絡先



林野庁 森林技術総合研修所 <http://www.rinya.maff.go.jp/kensyuu/index.html>

〒193-8570 東京都八王子市廿里町1833番地94

TEL 042-661-7121(総務課)

042-661-3560(教務指導官室)

042-661-3565(技術研修課)

042-661-3567(経営研修課)

FAX 042-661-7314



林業機械化センター <http://www.rinya.maff.go.jp/kikaika/index.html>

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1455

TEL 0278-54-8332(代表)

FAX 0278-54-8280